



北浦庁舎



麻生庁舎

豊かな自然との共生、活力ある人々、こころふれあうまち行方

「行方市」誕生

平成17年9月2日、麻生町・北浦町・玉造町の3町が合併し、新たに「行方市」が誕生しました。

午前8時より、それぞれの3庁舎(旧役場)で開庁式が行われ、麻生庁舎では職務執行者伊藤孝一前北浦町長が開庁の式辞を述べ、「行方市役所麻生庁舎」の銘板を除幕、テープカットを行い新市の発足を祝いました。北浦庁舎、玉造庁舎も同様の式典により開庁し、新たに行政業務をスタートしました。

新しい行方市

行方市は、茨城県の東南部にあり、東京都心から約70km、県都水戸市から約40kmの距離に位置しており、三町合わせると東西約12km、南北約24km、面積は166.33km²となります。北は鉾田町と小川町、南は潮来市に隣接し、東は北浦、西は霞ヶ浦(西浦)があります。

地形的には東西の湖岸部分は低地、内陸部は標高30m前後の丘陵台地(行方台地)により形成されています。霞ヶ浦沿岸部は概ねなだらかで連続的な稜線であるのに対し、北浦側は比較的起伏に富んでいます。また、霞ヶ浦湖岸の一部は水郷筑波国定公園に指定されており、美しい自然景観を有しています。

今後は、東関東自動車水戸線や百里飛行場の民間共用化が計画されており、広域的なポテンシャルが飛躍的に向上することが期待されています。





玉造庁舎

行方市誕生までの経過

- 平成 16年 3月 15日
「行方郡合併協議会」を設置
- 平成 16年 4月 27日
第 2 回協議会で「新設(対等)合併、市制施行」を決定
- 平成 16年 6月
新市名称の募集及び建設計画アンケートを実施
- 平成 16年 8月 19日
第 10回協議会で「合併期日を 9月 2日」と決定
- 平成 16年 9月 2日
第 11回協議会で「行方(なめがた)市」と決定
- 平成 16年 11月
住民説明会を開催
- 平成 17年 2月 25日
合併協定書に調印
- 平成 17年 2月 28日
3 町議会で合併議案を可決
- 平成 17年 3月 4日
茨城県知事へ合併申請
- 平成 17年 6月 22日
茨城県議会で廃置分合議案を可決
- 平成 17年 6月 23日
茨城県知事の決定・総務大臣へ届出
- 平成 17年 7月 14日
総務大臣の告示

平成 17年 9月 2日、麻生町・北浦町・玉造町が合併し、人口 40,770 人、面積 166.33 キロメートルの「行方市」が誕生しました。この記念すべき日を迎えることができたのも、議会、合併協議会委員はもとより 3 町の住民の皆様方の深いご理解とご協力の賜と、改めて感謝を申し上げます。



行方市長職務執行者
伊藤 孝一
(旧北浦町長)

しかしながら、地方自治体を取り巻く環境は年々厳しく、国の地方分権の推進により、市町村は行政能力の強化と新たな行政課題の対応や、将来を見据えた地域づくりの必要性に迫られています。

新たに誕生した「行方市」は、これまでの旧町の築いてきた、歴史・文化を尊重しつつ、新市建設計画の基本方針であります。「豊かな自然との共生、活力ある人々、こころふれあいまち行方」をめざして、後世において合併してよかったと評価されるよう努力してまいります。

新生「行方市」の発展のため、今後ともお一人層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。